

●北風に波立つ水面を優雅に泳ぐ水鳥たち

新年を迎え、いよいよ寒さも厳しく、公園の水辺も凍てつく寒さとなりました。そんな中で、活発なのは水辺の鳥たち。今月はスペースの都合で12月号に掲載できなかった公園の水鳥たちをご紹介します。

●クワツ！クワツ！皆さんおなじみ「カモ科」の鳥たち



カルガモ

■愛くるしい姿でおなじみのカモ。一口にカモといってもたくさん種類があります。一番ポピュラーなのはくちばしの先が黄色いカルガモ。留鳥なので一年中見かけます。他のカモと違い、オスメス同色です。ホツケ田の稲を食べてしまう、ちょっと悪い子です（笑）緑の顔が特徴のマガモは昔から食用として馴染みの深い種類です。コガモの個性的な模様はまるでメキシコのプロレスラーのようですね。ヒドリガモやオナガガモもオスの模様の特徴がありますが、先の2種よりも控え目でお上品。ちなみにカルガモ以外は冬鳥なので越冬しに飛来しています。



マガモ



コガモ



ヒドリガモ



オナガガモ

●大きくダイナミック「サギ科」の鳥たち



アオサギ



ダイサギ



コサギ

■公園で一番見かけるのはアオサギで、黄色のくちばしに灰色がかった模様が特徴。大きいもので全長 98cm、翼開長 170cm にもなる日本最大級のサギです。一般的にシラサギと呼ばれているものにも種類があり、大きさと大中小が頭に付きます。また夏羽と冬羽での変化も面白く、ダイサギは冬にくちばしが黒から黄色に変わり、コサギはクチバシの色は変わらずに夏に冠毛が生えます。公園では見かけないチュウサギは、黒いくちばしが冬には先端を残して黄色に変わるという、大きさと同様に色の変化も両種の間で面白いですね。いずれも留鳥で、カルガモと一緒にいることもあります。



★もぐっちょの入江

■公園の南西に位置する「もぐっちょの入江」。ちょっと変わった名前ですが、もぐっちょとは「カイツブリ」のこと。もぐって餌を捕るため、昔からそう呼ばれて親しまれていたようです。

●水の鶏と書いて「クイナ科」の鳥たち

■カモと並んでよく見かけるオオバン。公園には本州北部のものが秋頃になるとやってきます。オオバンよりも一回り小さいバンは、大きな声で鳴くことから、「田んぼの番人」ということでその名がついたといわれます。いずれも泳ぐ時に首を前後に振るのが特徴です。ちなみに公園内には、復元した御所沼に水鷄の再来を願って付けられた「水鷄坂」があります。



オオバン



バン



カワウ

水鳥の中でも魚捕りが上手なイメージのあるカワウ。公園でも見かけますが、近年では個体数の増加で環境破壊や漁業被害を起こすとして問題になっています。

●1年で最も寒いこの時期、春が待ち遠しいですね。てくてく情報、次号もお楽しみに！